

人口フレームの見直しについて

後期計画の策定に伴い、2020年（令和2年）国勢調査の結果で再計算し、人口フレームの見直しを行いました。

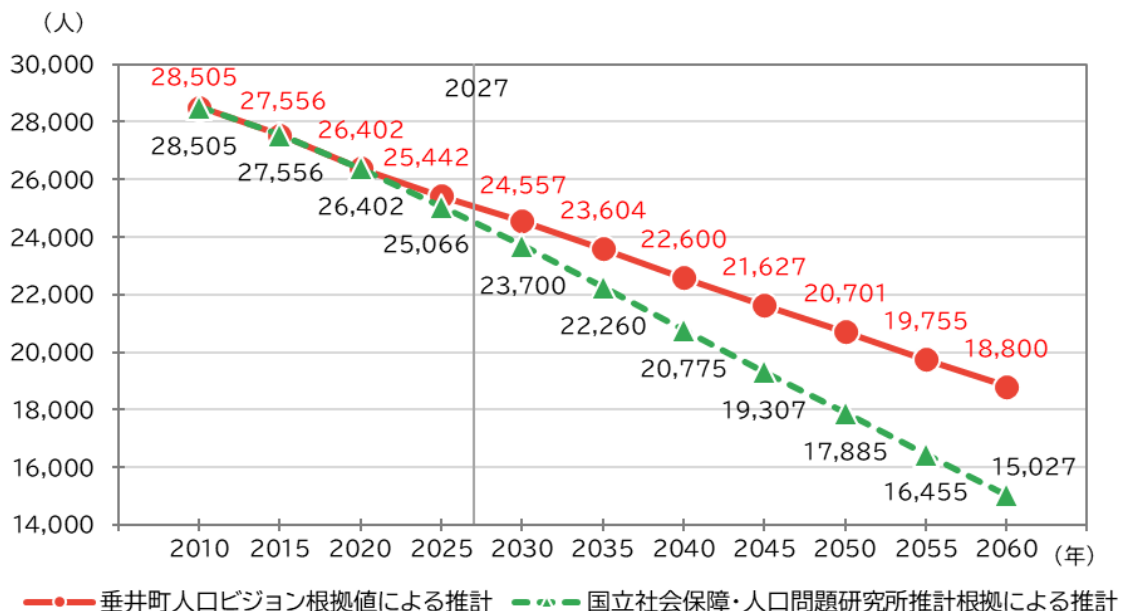
1 将来展望人口

垂井町の人口は、2000年（平成12年）の28,935人をピークに減少しており、2020年（令和2年）には26,402人となっています。このまま人口減少が続いた場合、2060年には人口が15,027人程度まで減少することが見込まれています（国立社会保障・人口問題研究所推計根拠による推計値）。

2015年（平成27年）に策定した「垂井町人口ビジョン」においては、「2030年までに合計特殊出生率を1.8まで上昇させ、10代から30代の若年者の転出を抑制する」ことを目標とし、「2027年に26,000人の人口を維持する」ことを目指しています。しかし、人口ビジョン策定以後に更新された国立社会保障・人口問題研究所の推計値（2018年（平成30年）推計）によれば、垂井町の人口減少傾向はさらに強まり、2025年にはすでに人口が26,000人未満となると見込まれています。

また、町の推計として、人口ビジョン策定時の算出根拠を踏襲し、2020年（令和2年）の値を国勢調査の実績値に置き換えて再計算した場合、同じく2025年には人口が26,000人未満となり、その後も減少傾向が続くと見込まれています。

【図表1 将来展望人口（見直し後）】



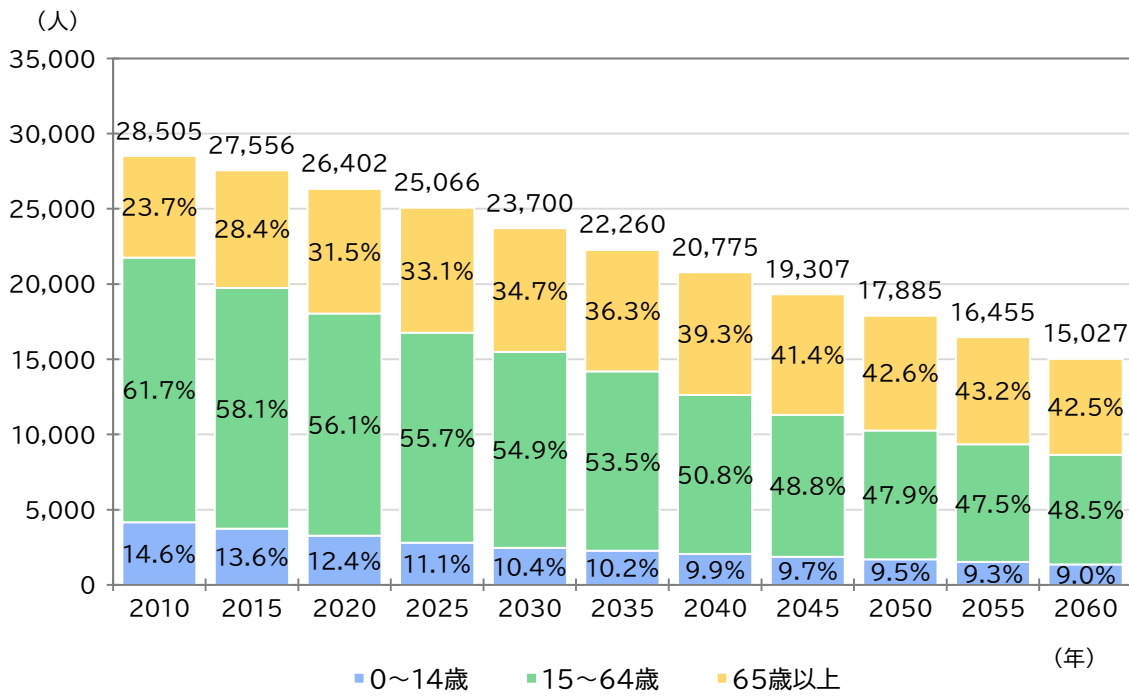
※垂井町人口ビジョン根拠値による推計

国立社会保障・人口問題研究所推計根拠による推計に、2015年策定「垂井町人口ビジョン」の目標である「2030年までに合計特殊出生率を1.8まで上昇させ、10代から30代の若年者の転出を抑制する」ことを反映し、再計算した推計

※国立社会保障・人口問題研究所推計（以下「社人研推計」という。）根拠による推計

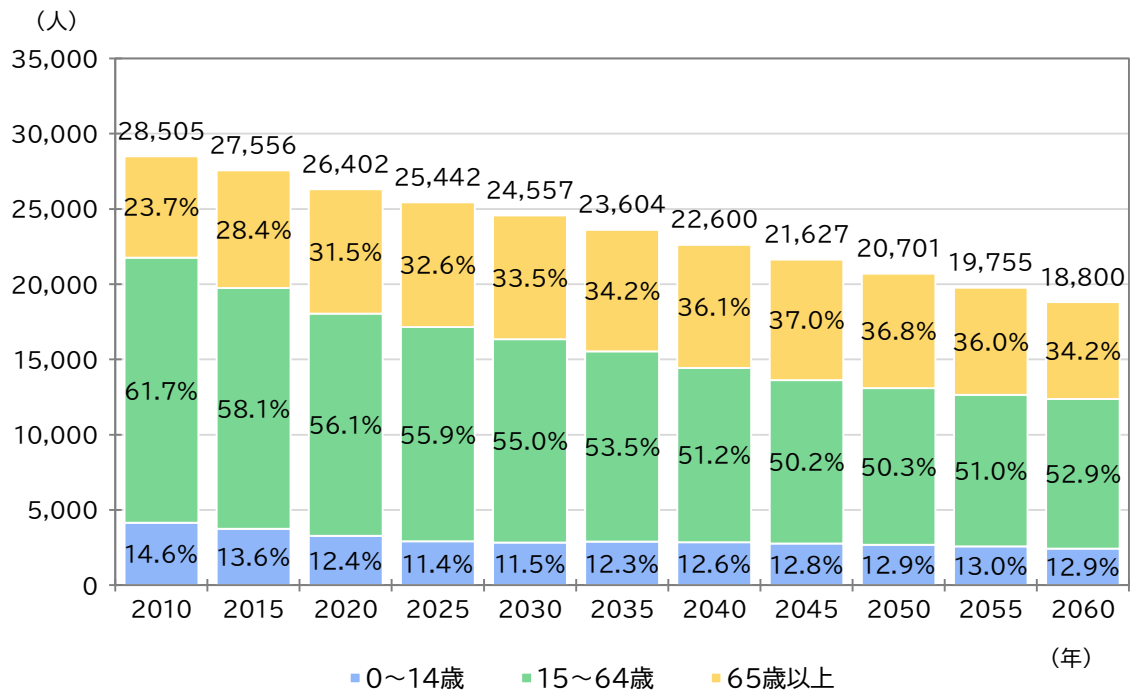
2018年社人研推計に、国勢調査2020の実績値を反映し再計算した推計

図表2 年齢3区分別人口割合の推移（国立社会保障・人口問題研究所推計根拠値）



※2010年～2020年は国勢調査による実績値

図表3 年齢3区分別人口割合の推移（垂井町人口ビジョン根拠値）

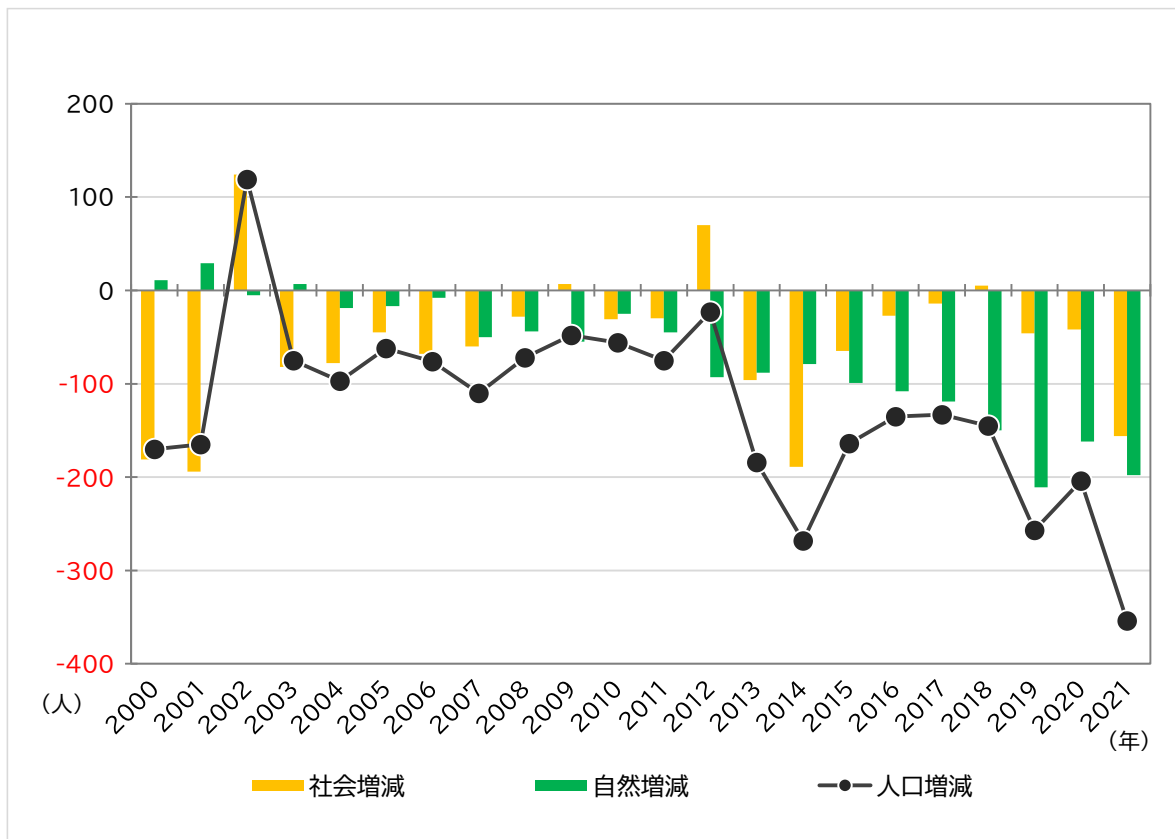


※2010年～2020年は国勢調査による実績値

2 人口増減の推移

垂井町の人口増減の推移をみると、社会増減（転入数－転出数）はマイナスの年が多く、自然増減（出生数－死亡数）も2004年（平成16年）以降マイナスが続いており、人口減の状態が続いています。2021年（令和3年）には社会減が156人、自然減が198人、合計で人口減が354人と、2000年以降で最も人口減が大きくなっています。

図表4 人口増減の推移



出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

3 目標指標の進捗状況

目標指標に対する直近の実績値は、下表のとおりです。

目標指標	2017年	2022年		2027年
	策定時の値	目標値	実績値	目標値
人口	27,556人 (2015年)	26,540人	26,402人 (2020年)	26,000人
合計特殊出生率	1.3	1.6	1.30 (2021年)	※後期計画 策定の中 で目標値 を設定
出生数	189人 (2016年)	208人	137人 (2021年)	
純移動数 (転入者数と 転出者数の差)	2人 (2016年)	-61人	-227人 (2021年)	